

十七歳の敗戦

松栄 秀文（昭和3年生まれ）

私は昭和17年9月に舞鶴海兵団へ入団しました。14歳6か月でした。新兵教育は子供も成人も区別なく一人前の軍人になるべく厳しいものでした。重い軍装や吊床等は子供の体力には応えませんでした。2か月の新兵教育を終え11月に横須賀の海軍通信学校へ入校しました。ここで9か月間通信兵としての教育訓練を受けました。短期間での教育訓練ですので文字通りの叩き込み教育でした。動作、服装、成績等すべての面に班長の目が光り、悪ければ容赦なくバツの制裁が行われます。中には倒れる仲間もいます。頭から水をかけられ、また叩かれます。親には見せられないこの姿を歯をくいしばって堪えてきました。

そして翌年7月に卒業し、9月に第11航空艦隊司令部への転勤が命ぜられました。10月に横須賀港を出港いたしました。棧橋からハシケに移る時、この一步を踏み出せば、再び生きて帰れないのかと思うと、なかなか踏み出せませんでした。

私達は輸送船白山丸に便乗し、2隻の駆逐艦に護衛されて出発しました。船は之字運動で進みますので、とても時間がかかります。3日くらいで祖国の山々が見えなくなり、海また海の毎日が続きます。船酔いもしました。とても苦しいものです。いくら苦しくとも船は止まりません。嘔吐物を帽子に入れてトイレで始末をするのですが歩けない位になります。トラック島で補給を済ませ、再び航海が始まりました。

10月23日の昼頃突然前左右の護衛艦の機銃が激しく火を吹きました。敵襲です。双方の機銃が激しく撃ち合いました。私には、初めての实战です。それとばかりに立ち上がった瞬間にドスンと音をたてて船は大きく傾きました。全員甲板に上れの号令で甲板に集まり、救命胴衣を着けて、沈没に備えました。下の方では、火災が発生しました。船の窓から逃げようとした1人が、身動きがとれず生きたまま燃えていきました。助ける事もできません。実に悲惨でした。

そんな形で、2日間航行し、ようやく目的地のラベウル港へ入港しました。港には沈みかけた船や爆弾痕があちこちにあり、椰子の木が折れ無残な姿を見せていました。俺もようやく戦場に立つ事が出来たのだと緊張感が湧いてきました。南方の最前線基地と言われるだけに、毎日敵の大編隊が飛行場の爆撃に来ます。戦闘機が迎撃し、果敢な空中戦が行われます。

しかし19年の2月頃に基地に飛行機がいなくなりました。サイパン方面への移動と聞かされました。前後して野戦病院や傷病兵女性達も引き揚げました。私達は孤立してしまったのです。分隊長は訓示の中で内地では毎月2,000機の飛行機が造られている、必ず応援に来ると言います。私達はそれを信じ神風を信じ勝利を確信していました。私たちの兵舎が襲撃された時は凄惨な機銃掃射でした。バリバリと夕立の様な音と共に私の足元に銃弾が落ちます。夢中で走りました。よくもあの弾の中生きておれたものと不思議な位です。

最早地上での生活はできなくなり、山に穴を掘り、穴倉の生活を始めました。穴倉の奥は風も通らず、じめじめとし、汗と土で異様な臭いがします。いつも熱帯夜の状態ですが兵達はぐっす

り眠りました。通信室も穴倉に移され狭い中での勤務でした。また病人や怪我をした人達も穴倉の中での治療です。麻酔もなく手術も麻酔なしで行われました。私も先輩の付添を一晩やりましたがあちこちで痛い痛いのうめき声がしていました。

食べ物も決戦に備えて1日80グラムの米でした。後は芋を食べるのです。芋の葉や草や木の根も掘って食べました。へびや蛙は貴重な蛋白質源です。競って食べました。落ちていく芋も泥をズボンでこすり、生で食べました。食物の無い生活の悲惨なこと、敵はいつ上陸するのか解りません。空腹と緊張の中で栄養失調やマラリアで多くの人達が倒れていきました。

20年5月27日畑にいた私達に爆弾が投下されました。どの角度なら命中するかを私達は知っていましたから、もう駄目だ、ここで死ぬと思った時頭の中は真っ白でした。ドカーンの大爆発音、私達は九死に一生を得ました。

8月17日敵機1機低空で旋回していました。翼の下には日本降服と書いてありました。まさか、ウソだと信じられませんでした。が事実だと知らされ大きなショックを受けました。この先どうなるのか不安と絶望感に悶々とする日が続きました。神風は吹かなかった日本は神の国ではなかった。みんなウソだったのだ。復員船に乗り祖国の山が見えた時、ああ生きて帰れたのだとの喜びも一入でした。

あれから六十有余年戦争を知らない人達が多くなりました。私達は二度とこの過ちを繰り返さない為にも歴史の証言者として事実を後世に伝えていかなければなりません。神国日本、忠君愛国等々教育の中に権力が介入した結果の悲劇と言えるでしょう。教育基本法が改正され、また憲法も変えられようとしています。いくらこれらを変えても退去の過ちは消えません。過ちの歴史は変える事は出来ません。戦争で人類の繁栄はありません。戦争は絶対やらないよう強く望みます。